

木材研究者育成に貢献

朝日ウッドテック財団

朝日ウッドテック財団（海堀芳樹代表理事）は4日、朝日ウッドテック本社で研究助成事業における第1回研究成果発表会を開いた。同財団は、木材の加工や利用、快適な住空間の実現に資する木質建材の開発につながる学術研究に取り組む研究者に対して202

3年度から助成事業を開始している。同発表会ではその第1期の採択者による研究成果が発表された。

村田功二京都大学大学院農学研究科教授は「荒廃農地に植林されたセンダン間伐材の活用技術開発」「エコ乾燥と木質材料」、酒井俊



村田教授の発表

課題は学術的、産業振興に寄与することを技術的に重要なものだった。いずれも顕著な研究成果が認められたので、将来実用に資することも期待される」と総評した。

同財団は朝日特殊合板（現・朝日ウッドテック）の創業者である故・海堀寅造氏が、経済的に恵まれた優秀な学生や生徒に奨学資金を給付し、有為の人材育成と教育の

振興に寄与することを目的に、基金を寄付するとの遺言に基づいて1975年に設立された。

これまで50年の活動期間で、延べ627人に2億8000万円の返済不要の奨学金を給付している。木材研究者への研究助成は、この活動を拡大してのもので、木材を通じた地球環境の保全と資源循環型社会の形成に貢献することも目指す。

佐氏（京都大学大学院博士後期課程）は「スクロースとプロトルエンスルホン酸のプレポリマーを接着剤に用いたパーティクルボードの開発」、大久保朝実奈良県森林技術センター木材利用課主任主事（採択者の共同研究者）は「内装材に適した乾式かび抵抗性試験方法の検討」で、それぞれ発表した。

選考委員長を務めた川井秀一京都大学名誉教授は「採択された3